

本音の
コトバ



季刊の文芸誌『文芸』
で前号(冬号)から田中
康夫『33年後のなんとなく、クリスタル』の連載
がはじまった。

『なんくり』は当時の
若者たちの生態を描いた
一九八一年のベストセラ
ー小説である。おびただ
しい数のブランド名と四
百四十二個もの注。資本
主義社会を批評した作品
として、当時の(頭の固
い)文学界で悪評フンブ
ンだったのがうそのよう
に現在の評価は高い。

その続編に当たる今作
では、主人公の由利も五
十代。あの頃同様してい
た淳一とはすぐ別れたら
しい。というだけでなく
続編の語り手は「ヤスオ
さん」と呼ばれる作家に

なった「僕」であり、再
会した由利と思い出話な
んかしているのだ。
うわっ、これって私小
説!? それとも虚実の皮
膜をいく作戦?

斎藤 美奈子

最新号(春号)に掲載
された連載第二回ではさ
らにパワー全開。青春時
代を共有した女性たちと
の会話の間に食のウンチ
クは登場するわ、県知事
時代に培った地方行政の
一端は披露されるわ、硬
軟取り混ぜた田中康夫マ
ターがてんこ盛り。

なんとなく33年

『なんくり』の巻末には
八〇年の厚生白書による
高齢化率の予測データが
ついていた。二〇〇〇年
の六十五歳以上の人口は
14・3%。現在はそれよ
りはるかに高い25%だ。
元なんくり族が高齢化社
会をどう生きるのか、政
治家経験もあるヤスオさ
んはどうかからむのか。興
味津々。(文芸評論家)